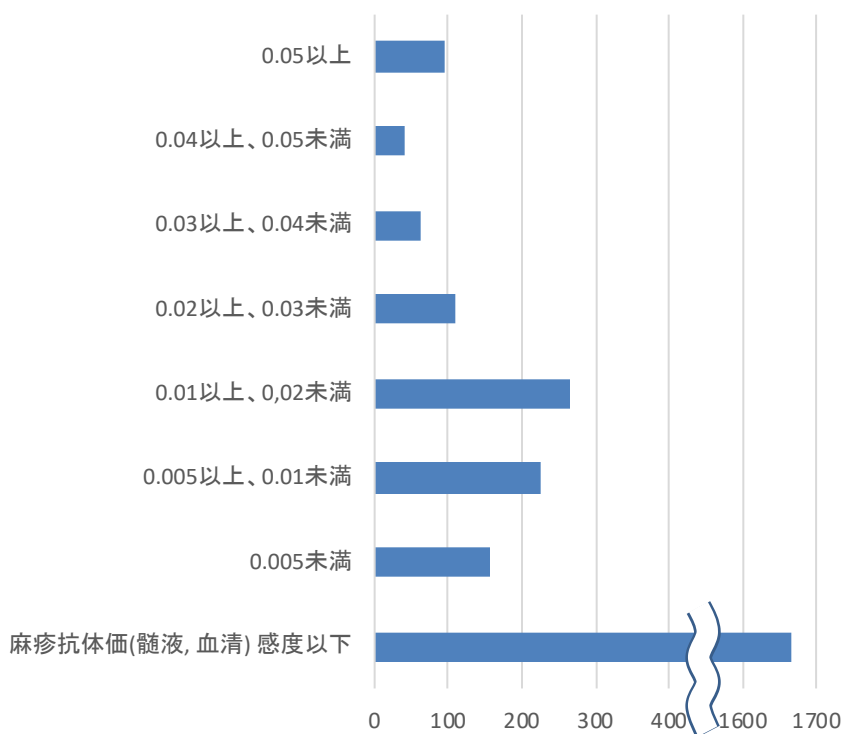


「診断基準の策定・改訂」を目的とした、麻疹特異抗体価 (EIA価) の髄液血清比の検討

研究分担者： 福島県立医科大学医学部小児科学講座 細矢光亮

髄液麻疹抗体価 (EIA法) の髄液血清比 (1990年から2019年8月のS社への依頼検体)

髄液/血清	検体数 (組)	%
0.05以上	94	3.6%
0.04以上、0.05未満	39	1.5%
0.03以上、0.04未満	64	2.4%
0.02以上、0.03未満	110	4.2%
0.01以上、0.02未満	265	10.1%
0.005以上、0.01未満	224	8.6%
0.005未満	155	5.9%
麻疹抗体価(髄液, 血清) 感度以下	1667	63.7%



同一日に髄液と血清麻疹抗体価を測定した2618組の検体データを使用

解説

1. SSPE診断において髄液中麻疹特異抗体価の明確な基準がない。
2. 当科で診断されたSSPE患者3例の診断時3組、経過中56組の髄液および血清検体と1990年から2019年8月まで株式会社エスアールエル (以下、S社) で同一日に血清と髄液の麻疹IgG (EIA価) 測定を依頼された2618組の検体 (詳細不明) の髄液血清比の集計結果を解析した。
3. 当科SSPE3例の診断時の髄液血清抗体比は0.07以上であり、経過中では0.05以上は54/56組 (96.4%)、S社での0.05以上は94組 (3.6%) であった。